

令和5年度長岡市水道事業の決算概要について



決算の概要は、次のとおりです。
以下の項目ごとに解説していくね！

※下線箇所をクリックすると、そのページに移行します。

1 給水状況 . . . 2 ページ

令和5年度末における給水状況は、給水人口239,932人、年間配水量3,185万 m^3 、そのうち料金収入の対象となった水量（有収水量）は2,725万 m^3 となりました。前年度と比較し、給水戸数は増加したものの、給水人口は2,774人減少しました。それにより年間配水量は81万 m^3 、年間有収水量は60万 m^3 の減少となりました。

ここでは、直近5年間の給水状況を踏まえ、令和5年度について説明します。

2 水道管や施設の整備（建設改良費） . . . 3 ページ

安全で安心な水を安定的にお届けするために、令和5年度は27.0億円を投じて水道管の布設替えや耐震化、浄水場などの設備更新を実施しました。また、主要事業のうち大規模な与板・寺泊浄水場の妙見浄水場への統合事業では、送水管の布設や上除配水池送水管分岐工事、千体川送水管推進工事実施設計などを実施しました。

ここでは、令和5年度に実施した建設改良事業について説明します。

3 財務諸表から見た財務状況 . . . 4 ページ

水道水をつくるための収益と費用（消費税抜き）では、収益53.4億円に対し、費用は47.9億円となり、収支差引き5.5億円の純利益が生じました。

事業収益は、基幹収入である給水収益（水道料金収入）の落ち込みにより、1.1億円（▲1.9%）減少しました。一方で事業費用は、物価高騰などの影響により薬品費などが増加したものの、国のエネルギー価格激変緩和対策により浄水場、ポンプ場などの動力費（水道水をつくるためにかかる設備の電気料等）が抑制されたほか、減価償却費や固定資産撤去に伴う資産減耗費などの減少により、2.0億円（▲4.1%）減少したため、純利益は前年度から0.9億円（21.5%）増加しました。

老朽化した水道管の布設替えや設備などの更新費用は、主に企業債（借入金）を財源としており、10.0億円を借り入れて事業を実施しました。

当市の財務状況については、3つの財務諸表（損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書）をもとに説明します。

4 水道料金とその使いみち . . . 7 ページ

ここでは、皆さまからいただいた水道料金がどのように使われたのか、水道事業の特徴を踏まえて説明します。

（注）当資料の数値は、原則として単位未満で四捨五入しています。このため、決算書の数値と一致しない場合があります。

1 給水状況

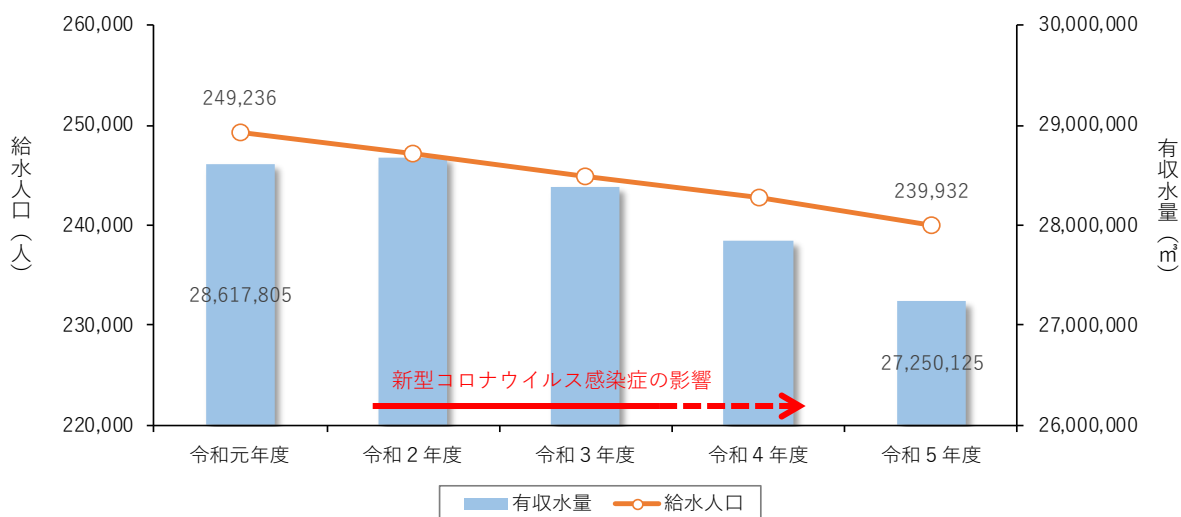
給水戸数は伸びているものの、給水人口及び有収水量ともに減少傾向にあります。有収率は、80%台半ばを推移しています。

項 目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
給 水 人 口 (人)	249,236	247,227	244,842	242,706	239,932
給 水 戸 数 (戸)	106,126	106,753	107,340	107,591	107,675
配 水 量 (m ³)	33,002,013	33,165,470	32,995,621	32,657,994	31,845,055
有 収 水 量 ※ ¹ (m ³)	28,617,805	28,674,901	28,385,369	27,851,231	27,250,125
有 収 率 ※ ² (%)	86.71	86.46	86.03	85.28	85.57

※1 配水量のうち料金徴収の対象となった水量

※2 配水量のうち有収水量の割合

給水人口と有収水量の推移



令和5年度決算における給水状況

◆給水戸数と給水人口

宅地造成や世帯分離などにより給水戸数は伸びていますが、少子化などによる自然減や、就職などで転出者が増えたことから、給水人口は減少傾向にあります。令和2年度以降は著しい減少傾向が見られ、毎年度2,000人を超えている状況です。

人口減少は、水道水を使う人も減ることになり、有収水量に大きな影響を与えているんだ。
これは水道料金収入に直結するので、今後も人口の動きには注視が必要だね。



◆有収水量

給水人口の減少や節水機器の普及等により、家庭用が減少したほか、業務営業用 (▲96,015m³) や工業用 (▲80,560m³) が減少したことにより全体で601,106 m³ (▲2.2%) 減少しました。

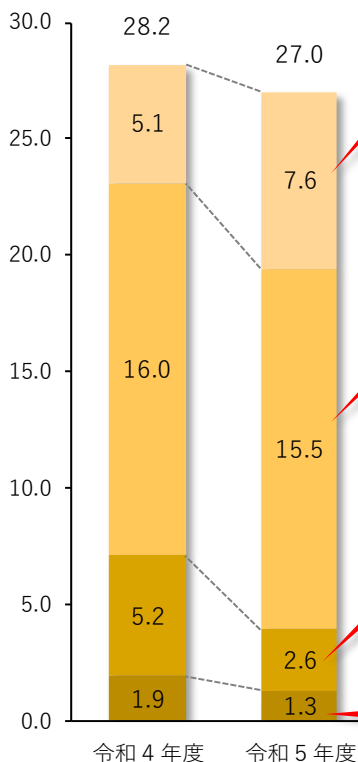
▽用途別有収水量の前年度増減比較 (m³)

用 途 別	令和5年度	令和4年度
家 庭 用	▲443,752	▲401,676
業 務 営 業 用	▲96,015	▲63,395
工 業 用	▲80,560	▲80,173
そ の 他	19,221	11,106

2 水道管や施設の整備（建設改良費）

水道事業は、浄水場や配水池、水道管など多くの施設や設備があります。これらの整備には多額の費用が必要となるため、「[長岡市水道事業経営戦略](#)」の投資計画に基づき、以下のとおり実施しました。

(億円) 建設改良費の前年比較



◆与板・寺泊浄水場の妙見浄水場への統合事業

妙見浄水場の給水区域を拡大するため、送水管の布設や施設などに係る実施設計を行いました。

- ・送水管の布設 $\phi 100\text{mm} \sim \phi 400\text{mm}$ L=2.3km
- ・上除配水池送水管分岐工事 ほか

◆水道管の更新、ポンプ場などの施設整備

漏水や濁り水を減らすため、老朽化した水道管の耐震管への布設替えや、老朽化した設備の更新を行いました。

- ・水道管の布設替え $\phi 50 \sim 300\text{mm}$ L=5.9km
- ・大島ポンプ場送水ポンプ更新工事 ほか

◆浄水場の施設整備

安全な水を安定的に供給するため、浄水場の設備などの更新工事などを行いました。

- ・妙見浄水場監視設備更新工事
- ・妙見浄水場配水ポンプ更新工事 ほか

◆その他（事務費、資産購入費、業務施設費など）

令和5年度に実施した建設改良事業について

建設改良事業は、「[長岡市水道事業経営戦略](#)」に基づいて事業を展開しています。

主要事業の1つである与板・寺泊浄水場の妙見浄水場の統合事業は、送水管を2.3km布設したほか、上除配水池送水管分岐工事や千体川送水管推進工事実施設計などを実施しました。

また、安全な水を安定してお届けするため、老朽化した水道管の布設替えや、設備などの更新を進め、水道管の布設替えにあたっては耐震管を採用しています。

既存の水道管や浄水場などの施設は、今後も適切な維持管理により長寿命化を図るとともに、計画的に更新を行っていきます。

なお、更新にあたっては、水の使用量の減少を踏まえ、適正な規模への見直し（ダウンサイジングなど）を行っています。



(大島ポンプ場送水ポンプ更新工事)

蛇口をひねれば、安全でおいしい水が出る。この当たり前の光景を守るため、効率的な施設運用ができるよう計画的に整備する必要があるんだ。



3 財務諸表から見た財務状況

(1) 損益計算書

損益計算書は、水道事業がどのような経営活動によって、どれだけの経営成績（黒字or赤字）を上げたのかを知るための財務諸表です。令和5年度決算の損益計算書は、次のとおりです。

▽損益計算書

（単位：百万円、税抜き）

科 目	令和5年度	令和4年度	増 減
営業収益 ① (皆さまでいただいた水道料金などの収入)	4,794	4,901	▲ 107
給水収益 (水道料金収入)	4,478	4,569	▲ 91
加入金、下水道受託収益、その他営業収益	316	332	▲ 16
営業費用 ② (きれいな水を作り、お届けするための費用)	4,529	4,791	▲ 262
原水及び浄水費、配水費、給水費、総係費、業務費	2,266	2,425	▲ 159
減価償却費、資産減耗費	2,263	2,366	▲ 103
営業利益 ③ (①－②) 通常の業務活動の損益の結果	265	110	155
営業外収益 ④ (一般会計などからの補助金)	552	551	1
他会計補助金	10	13	▲ 3
長期前受金戻入収益	496	497	▲ 1
受取利息及び配当金、雑収益など	46	41	5
営業外費用 ⑤ (企業債の借入れに伴う利息などの費用)	202	205	▲ 3
支払利息及び企業債取扱諸費	189	200	▲ 11
雑支出	13	5	8
経常利益 ⑥ (③＋④－⑤) 通常の業務活動の損益の結果に加えて資金調達等に関する損益の結果	615	456	159
特別利益 ⑦	0	0	0
特別損失 ⑧	62	1	61
純利益 ⑨ (⑥＋⑦－⑧) 1年間のすべての損益の結果	553	455	98

損益計算書から見た令和5年度決算について

◆給水収益（水道料金収入）

基幹収入である給水収益は、44億7,800万円となり、前年度と比べ9,100万円（▲1.99%）減少しました。なお、前年度の給水収益の減収額が8,000万円であったことから、この落ち込みは非常に厳しい状況と捉えています。

◆営業利益

給水収益が大幅に減少した一方で、営業費用は国のエネルギー価格激変緩和対策により動力費が抑制されたほか、減価償却費などが減少したため、営業利益は2億6,500万円となり、前年度と比べ1億5,500万円（140.9%）増加しました。

◆純利益

給水収益は減少したものの、支出の抑制により、純利益（黒字）は5億5,300万円となり、前年度と比べ9,800万円（21.5%）増加しました。

水道料金収入の減少、物価高騰による経費の増加など、水道事業を取り巻く環境は年々厳しさを増してきているね。今後、経費節減や業務の効率化などにより一層取り組み、健全な経営維持に努めていかないとだね。



(2) 貸借対照表

貸借対照表は、年度末において保有しているすべての水道資産がどのような財源でつくられたのか（資産＝負債＋資本）を表す財務諸表です。令和5年度決算の貸借対照表は、次のとおりです。

（単位：百万円、税抜き）

▽資産がどのような状態で、いくらあるのか

資 産 の 部	令和5年度	令和4年度	増 減
固定資産	50,662	49,574	1,088
有形固定資産	114,273	109,165	5,108
有形固定資産減価償却累計額	▲ 63,854	▲ 59,917	▲ 3,937
無形固定資産	243	326	▲ 83
流動資産	7,245	8,358	▲ 1,113
現金預金	6,893	8,142	▲ 1,249
未収金	325	167	158
その他	27	49	▲ 22
資 産 合 計	57,907	57,932	▲ 25



ポイント！！
古くなった水道管や施設などは、お金を借りて整備しているんだけど、次の世代の負担にならないように計画的に借りていかないとだね。

▽資産がどのような財源でつくられたのか

負 債 の 部	令和5年度	令和4年度	増 減
固定負債	15,928	16,733	▲ 805
企業債	14,584	15,310	▲ 726
引当金	1,344	1,423	▲ 79
流動負債	2,725	2,966	▲ 241
企業債	1,392	1,451	▲ 59
引当金	57	55	2
未払金	1,037	1,106	▲ 69
預り金等	239	354	▲ 115
繰延収益（長期前受金）	9,864	9,991	▲ 127
負 債 合 計	28,517	29,690	▲ 1,173
資 本 の 部	令和5年度	令和4年度	増 減
資本金	22,477	21,287	1,190
剰余金	6,913	6,955	▲ 42
資本剰余金	484	473	11
利益剰余金	6,429	6,482	▲ 53
資 本 合 計	29,390	28,242	1,148
負 債 ・ 資 本 合 計	57,907	57,932	▲ 25

《用語解説》

有形固定資産

土地や建物、水道管、機械設備など

無形固定資産

刈谷田川ダムを使用する権利など

流動資産

現金・預金と1年以内に現金化できる資産

企業債

1年以内に返済する予定の額は流動負債に、1年を超えて返済する予定の額は固定負債にそれぞれ整理

未払金

1年以内に支払わなければならないもの

預り金等

税金や社会保険料、下水道使用料など預かっている現金など

繰延収益（長期前受金）

固定資産を取得する財源となった国庫補助金など

資本金

純利益や一般会計出資金などを組み入れた額

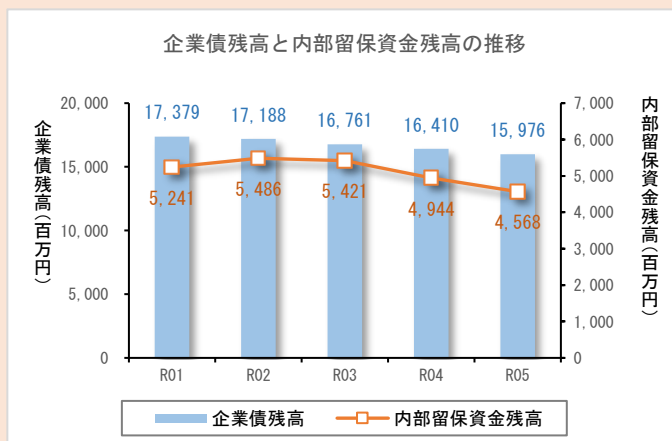
利益剰余金

純利益と企業債の返済を目的とした積立金など

貸借対照表から見た令和5年度決算について

一般的に水道事業は、水道管や施設をつくる財源の大部分を借入金に頼っていることから、企業債が多くなる傾向にあります。長岡市はこれまで蓄えてきた内部留保資金を活用して借入額の抑制に努めてきたため、右グラフのとおり企業債残高を減らすことができています。

しかし、今後は給水収益の減少や、老朽化した水道管や施設などの更新費用の増加が見込まれており、その財源として企業債の借入額が増えていくことが想定されているため、内部留保資金の状況を勘案しながら、計画的な更新に努めていかなければなりません。



(3) キャッシュ・フロー計算書

キャッシュ・フロー計算書は、1年間における現金の収支状況を活動区分別に表した財務諸表であり、損益計算書や貸借対照表では読み取れない「現金の流れ」を確認するためのものです。令和5年度決算のキャッシュ・フロー計算書は、次のとおりです。

▽キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円、税抜き)

資金期首残高	①	7,823
令和5年3月31日時点の現金残高		
業務活動によるキャッシュ・フロー	②	1,998
事業の主たる業務活動による現金の出入り（水道料金や施設の維持管理費など）		
投資活動によるキャッシュ・フロー	③	▲ 2,556
設備投資等による現金の出入り（有形固定資産の取得費や売却代金、国庫補助金の収入など）		
財務活動によるキャッシュ・フロー	④	▲ 372
外部からの資金調達とその返済による現金の出入り（補助金、企業債の借入れや返済など）		
資金期末残高	⑤ (②+③+④)	6,893
令和6年3月31日時点の現金残高		
資金増減額	⑥ (⑤-①)	▲ 930
前年度との比較		

令和5年度の決算の状態

○キャッシュ・フロー計算書の読み方

	業務活動	投資活動	財務活動	説 明
パターン①	プラス	マイナス (▲)	マイナス (▲)	本業の業績は概ね良好であり、借入金残高を減少させつつ建設改良に係る投資も実施しており、 比較的良好な経営状況にあると想定 される。
パターン②	プラス	マイナス (▲)	プラス	本業の業績は概ね良好であるが、建設改良に係る投資財源を借入金に依存し、かつその残高が増加しているため、 今後の返済負担増加が想定 される。
パターン③	マイナス (▲)	マイナス (▲)	プラス	本業の業績は厳しく、建設改良に係る投資財源に加え、日常の運転資金も借入金に依存している可能性があり、 資金繰りが非常に厳しくなっていると想定 される。

※損益計算書や貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書の詳細は、[令和5年度長岡市水道事業会計決算書](#)をご覧ください。

キャッシュ・フロー計算書から見た令和5年度決算について

水をつくるための設備投資や企業債の返済を賄うだけの現金を有しており、上表のパターン①に該当していることから、経営状況は良好であるといえます。

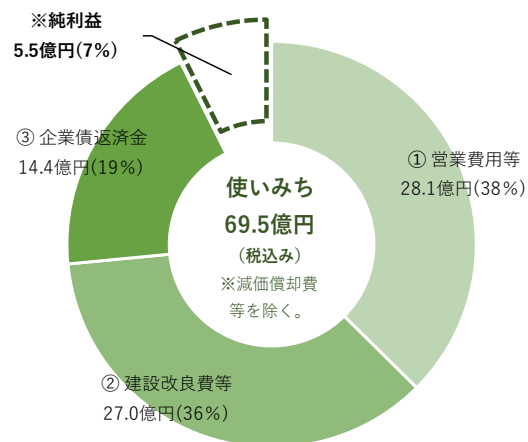
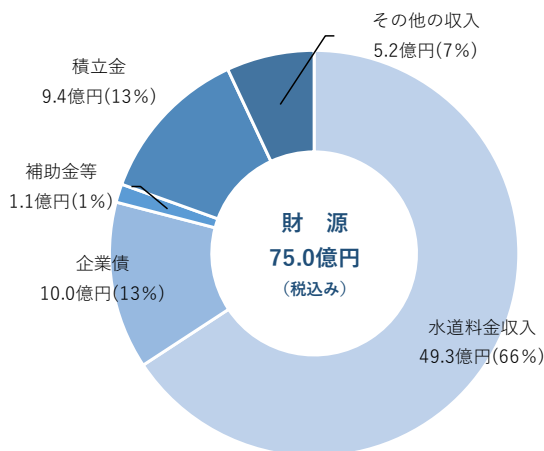
しかし、業務活動と投資活動のキャッシュフローを合わせると、約5.6億円のマイナスとなることから、積立金の取り崩しや借入れにより、更新等の投資を行っている様子がわかります。今後、給水収益減少と更新費用増加が見込まれるなか、積立金残高や借入金返済額など、現金の動きに注意して経営を維持していく必要があります。

黒字だから経営は大丈夫だ
という訳でなく、現金の動き
にも注意する必要があるん
だね。



4 水道料金とその使いみち

令和5年度の水道事業の運営における財源とその使いみちは、次のとおりです。



水道事業は、お客さまからいただいた水道料金を主な財源として運営をしています。

ただし、水道料金収入だけでは事業運営はできないため、水道管の新規布設や古い水道管の布設替え、浄水場などの施設を整備するための財源として企業債を借り入れています。

その他の収入としては、国や一般会計からの補助金のほか、積立金などがあります。

財源の使いみちとしては、大きく3つに分類されます。

①水をきれいにし、ご家庭などに届けるための費用

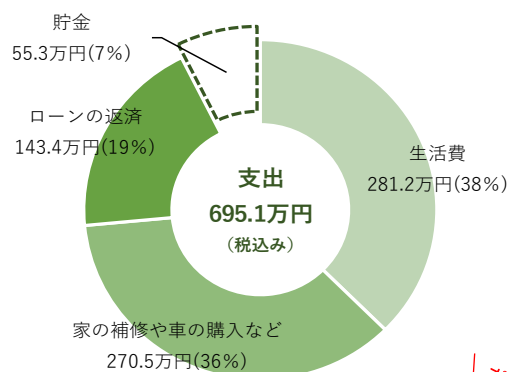
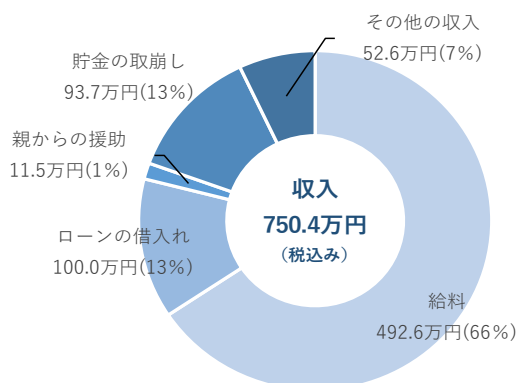
②水道管の新規布設や古い水道管の布設替え、浄水場などの施設を整備するための費用

③過去の工事等のために借りたお金の返済

※純利益は、翌年度以降の企業債の返済のために積み立てました。

◆上記のグラフを家計簿に例えてみると・・・

本来であれば、給料の範囲内で家計を賄えることが理想ですが、家の補修や車の購入にたくさんのお金が必要となりますので、不足する分をローンで補っています。これから給料が増える可能性は低いいため、ローンを上手に活用したり、生活費を切り詰めたりするなどの努力をしていく必要があります。



今のところ、将来への積立をしながら、事業運営ができていくけど、これからは水道料金収入が減り、水道管の入替えや施設の整備にたくさんの費用がかかるため、経営は厳しくなる見込みなんだ。
経営戦略に基づいて事業を実施し、これからも安全でおいしい水を届け続けるね！



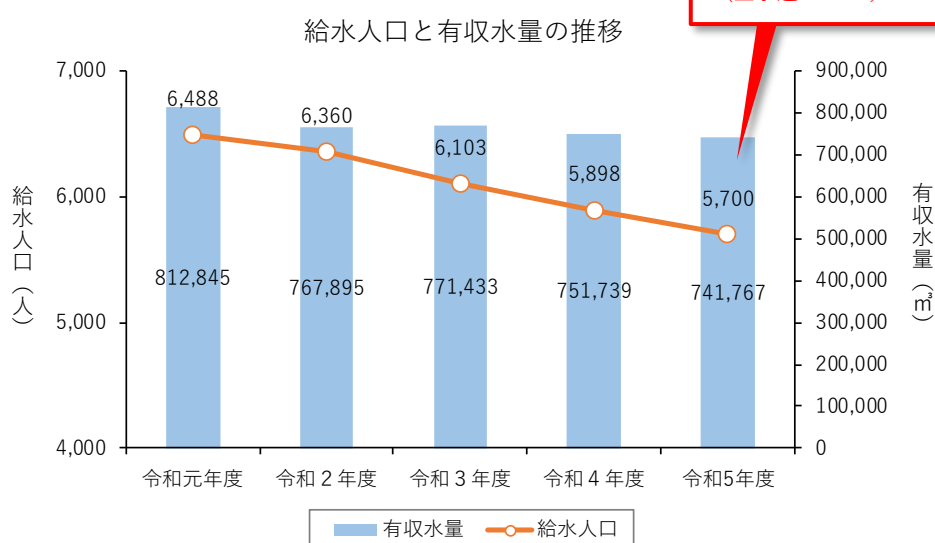
令和5年度長岡市簡易水道事業の決算概要について

ここからは簡易水道事業の決算の概要を説明します。



1 給水状況

山古志地域、小国地域、栃尾地域及び川口地域に14地区の簡易水道（小規模水道を含む。）があります。これらの簡易水道は、主に中山間地域にあり、少子化や市外県外への転出などにより、給水人口の減少が進行しています。



給水人口は、2年連続で3.3%を超える減少となり、上水道の給水人口よりも減少スピードが早い傾向だね。



家庭用の使用水量は、給水人口の減少などにより減少しました。これまで新型コロナウイルス感染症の影響を受けていた営業用やプール用などが増加し、業務営業用は前年度に比べ4,238 m³増加しましたが、家庭用の使用水量が減少したため、有収水量は全体で9,972 m³（▲1.3%）減少しました。

用途	令和2年度 m³	令和3年度 m³	令和4年度 m³	令和5年度 m³	前年度増減 m³
家庭用	537,478	524,251	502,310	484,740	▲17,570
業務営業用	140,528	150,792	157,516	161,754	4,238
工業用	88,125	94,564	89,740	93,036	3,296
その他	1,764	1,826	2,173	2,237	64
合計	767,895	771,433	751,739	741,767	▲9,972

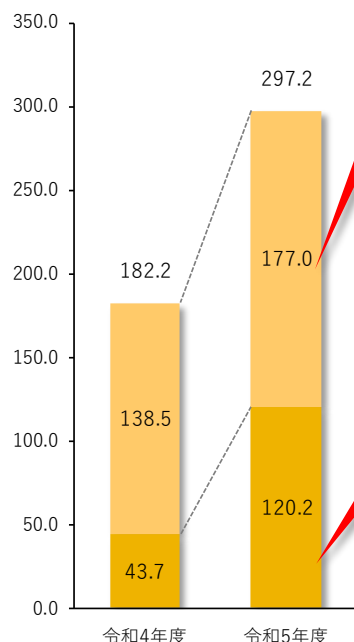
有収水量の主な用途は、やはり家庭用（6割）だね。ただ、上水道に比べ人口規模が小さいので、簡易水道の有収水量は、業務営業用や工業用の使用水量で変動しやすい傾向にあるんだ。



2 水道管や施設の整備（建設改良費）

令和5年度の建設改良事業は、水道管の布設替えを実施したほか、沈でん池傾斜板や除塵設備などの更新を実施しました。

（百万円） 建設改良費



◆水道管の更新、ポンプ場などの施設整備（量水器費除く）

漏水や濁り水を減らすため、老朽化した水道管の耐震管への布設替えや、設備などの更新を行いました。

- 水道管の布設替え φ50mm～φ150mm L=1,540.0m（栃尾地域）
- ポンプ室残留塩素計更新工事（栃尾地域） ほか

◆浄水場の施設整備

安全な水を安定的に供給するため、浄水場の設備などの更新工事を行いました。

- 導水管布設替φ150mm L=200.8m（栃尾地域）
- 計装設備更新工事（栃尾地域）
- 除塵設備更新工事（栃尾地域）
- 沈でん池傾斜板更新工事（川口地域） ほか

3 財務状況

(1) 損益計算書

地方公営企業の経営は、独立採算制を建前としていますが、簡易水道事業は給水人口が少ないことから、給水収益だけでは費用を賄うことができず、営業損失が生じています。この収支不足分を補うため、一般会計から補助金の交付を受けて事業運営を行っています。

▽損益計算書

（単位：百万円、税抜き）

科 目	令和5年度	令和4年度	増 減
営業収益 ① （皆さまからいただいた水道料金などの収益）	129	131	▲2
営業費用 ② （きれいな水を作り、お届けするための費用など）	465	443	22
営業損失 ③ ①－② 通常の業務活動の損益の結果	336	312	24
営業外収益 ④ （一般会計からの補助金など）	400	364	36
営業外費用 ⑤ （企業債の借入れに伴う利息などの費用）	23	20	3
経常利益 ⑥ ③＋④－⑤ 通常の業務活動の損益の結果に加えて資金調達等に関する損益の結果	41	32	9
特別利益 ⑦	0	0	0
特別損失 ⑧	5	5	0
純利益 ⑨ ⑥＋⑦－⑧ 1年間のすべての損益の結果	36	27	9

(2) 貸借対照表

水道管や設備などの施設更新は、企業債を財源として実施しており、令和5年度は2億8,030万円の企業債を借りました。前年度からの繰越事業が多く建設改良費が増加したため、企業債の借入額も前年度より増加しました。借入額が償還額を上回ったことで、企業債残高は前年度より8,241万円増加しました。

(単位：百万円、税抜き)

▽資産がどのような状態で、いくらあるのか

資 産 の 部	令和5年度	令和4年度	増 減
固定資産	4,712	4,744	▲ 32
有形固定資産	10,461	10,227	234
有形固定資産減価償却	▲ 5,805	▲ 5,543	▲ 262
累計額			
無形固定資産	56	60	▲ 4
流動資産	308	207	101
現金預金	261	182	79
未収金	46	24	22
その他	1	1	0
資 産 合 計	5,020	4,951	69

▽資産がどのような財源でつくられたのか

負 債 の 部	令和5年度	令和4年度	増 減
固定負債	1,731	1,663	68
企業債	1,703	1,649	54
引当金	28	14	14
流動負債	379	292	87
企業債	206	190	16
引当金	4	4	0
未払金	169	97	72
預り金等	0	1	▲ 1
繰延収益（長期前受金）	1,650	1,800	▲ 150
負 債 合 計	3,760	3,755	5
資 本 の 部	令和5年度	令和4年度	増 減
資本金	1,110	1,110	0
剰余金	150	86	64
資本剰余金	16	16	0
利益剰余金	134	70	64
資 本 合 計	1,260	1,196	64
負 債 ・ 資 本 合 計	5,020	4,951	69

(3) キャッシュ・フロー計算書

令和5年度の業績は概ね良好ですが、建設改良に係る投資財源を借入金に依存し、かつ借入残高も増加しているため、今後の返済負担増加が想定されます。(P6「キャッシュ・フロー計算書の読み方」参照)

▽キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円、税抜き)

資金期首残高	①	113
令和5年3月31日時点の現金残高		
業務活動によるキャッシュ・フロー	②	216
事業の主たる業務活動による現金の出入り（水道料金や施設の維持管理費など）		
投資活動によるキャッシュ・フロー	③	▲ 150
設備投資等による現金の出入り（有形固定資産の取得費や売却代金、国庫補助金の収入など）		
財務活動によるキャッシュ・フロー	④	82
外部からの資金調達とその返済による現金の出入り（補助金、企業債の借入れや返済など）		
資金期末残高	⑤ (②+③+④)	261
令和6年3月31日時点の現金残高		
資金増減額	⑥ (⑤-①)	148
前年度との比較		

※損益計算書や貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書の詳細は、[令和5年度長岡市簡易水道事業会計決算書](#)をご覧ください。

簡易水道事業は、給水人口に比べて施設がたくさんあるから、お金がかかるんだ。そのうえ、物価高騰などの影響も続きそうだから、少しでも節約できるように努力していかなきゃだね。

